

第 V 部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和3年9月10日～10月4日
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,577 (52.6%)
 * 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。
 ※比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
 合計が100%にならないことがある。

令和3年度(2021年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 食・食育 | 8 SDGs(持続可能な開発目標) |
| 2 食の安全・安心 | 9 気候変動への適応 |
| 3 神奈川県の農林水産業 | 10 電気自動車(EV)の普及 |
| 4 とともに生きる社会かながわ | 11 プラスチックごみ削減に向けて |
| 5 かながわの広報 | 12 地域コミュニティ |
| 6 神奈川県の人権 | 13 治安対策 |
| 7 男女共同参画社会 | 14 マスク飲食 |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前、ご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、10月4日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)

▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- 問合せフォーム (10月4日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)
 に掲載している「令和3年度調査対象者」向けお問い合わせフォーム
 から送信してください。

- 電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15(土日祝日は閉庁)

1 食・食育

問1 「食育」※に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 関心がある	37.4	4 関心がない	3.8
2 どちらかといえば関心がある	38.9	5 分からない	4.5
3 どちらかといえば関心がない	13.0	(無回答)	2.4

※食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

問2 主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけていますか。(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 心がけている	76.5	3 分からない	4.8
2 心がけていない	16.7	(無回答)	2.0

問3 就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけていますか。(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 気をつけている	62.3	3 分からない	2.7
2 気をつけていない	32.5	(無回答)	2.4

【複数人でお住まいの方のみお答えください】

問4 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【朝食】 (n=1,328) (%)

1 ほとんど毎日	43.8	3 週に2~3日	13.6	5 ほとんど食べない	27.0
2 週に4~5日	6.3	4 週に1日程度	5.9	(無回答)	3.4

【夕食】 (n=1,328) (%)

1 ほとんど毎日	63.2	3 週に2~3日	13.1	5 ほとんど食べない	7.2
2 週に4~5日	9.3	4 週に1日程度	4.0	(無回答)	3.2

【一人暮らしの方のみお答えください】

問5 昼食・夕食を仲間や友人など、複数で一緒に食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【昼食】 (n=238) (%)

1 ほとんど毎日	3.4	3 週に2~3日	9.7	5 ほとんど食べない	58.0
2 週に4~5日	8.4	4 週に1日程度	6.7	(無回答)	13.9

【夕食】 (n=238) (%)

1 ほとんど毎日	1.3	3 週に2~3日	2.1	5 ほとんど食べない	70.6
2 週に4~5日	2.5	4 週に1日程度	9.2	(無回答)	14.3

【全員の方がお答えください】

問6 いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできていると思いますか。(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 できていると思う	28.3	4 できていないと思う	9.8
2 どちらかといえばできていると思う	45.1	5 分からない	2.5
3 どちらかといえばできていないと思う	12.1	(無回答)	2.1

問7 ゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 食べている	17.8	4 食べていない	11.2
2 どちらかといえば食べている	37.8	5 分からない	2.5
3 どちらかといえば食べていない	28.7	(無回答 2.0)	

問8 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 気をつけている	55.1	3 あまり気をつけていない	5.0
2 ある程度気をつけている	37.2	4 分からない	0.6
(無回答 2.1)			

問9 歯と口の健康を保つために、かかりつけ歯科医を決めていますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 決めている	70.8	3 分からない	1.0
2 決めていない	24.7	(無回答 3.6)	

2 食の安全・安心

問10 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。 (○はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 期限表示(消費期限や賞味期限)	89.4	5 食品添加物(保存料や着色料など)	34.4
2 原産地や原産国	70.3	6 保存方法	32.4
3 アレルギー表示	9.6	7 遺伝子組換え食品に関する事項	23.1
4 原材料名	29.7	8 その他	2.8
(無回答 2.7)			

問11 食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを選んでください。 (○はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	49.4
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	92.1
3 調理や食事前によく手を洗う	82.0
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	54.5
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	74.2
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	75.3
(無回答 2.1)	

問12 食品を安全に食べるために、必要な知識(例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど)を持っていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 持っていると思う	43.7	4 持っていないと思う	0.8
2 ある程度持っていると思う	45.0	5 分からない	1.5
3 あまり持っていないと思う	7.0	(無回答 2.1)	

3 神奈川県農林水産業

問 13 県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いませんか。

(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 重要だ	43.4	4 重要ではない	1.5
2 どちらかといえば重要だ	42.9	5 分からない	8.6
3 どちらかといえば重要ではない	2.5	(無回答 1.2)	

※地産地消とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問 14 「かながわブランド」という言葉の意味について知っていますか。(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 知っている	25.4	3 知らなかった	27.0
2 言葉は聞いたことがある	46.3	(無回答 1.3)	

県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」では、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品を「かながわブランド」として登録しています。

問 15 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。

(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 食料の安定供給	16.8	6 美しい風景や文化の継承	2.7
2 安全・安心な食料の供給	45.3	7 働く場の提供	1.1
3 価格の安い食料の供給	12.1	8 その他	0.5
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	1.5	9 分からない	2.8
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	2.3	(無回答 14.9)	

4 とともに生きる社会かながわ

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月に「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



問 16 「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 知っている	6.0	3 知らなかった	71.5
2 言葉は聞いたことがある	20.8		(無回答 1.7)

【問 16 で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」とお答えの方に】

問 16-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」を何で知りましたか。 (○はいくつでも) (n=423) (%)

1 ポスター・チラシ (駅・公共施設)	31.0	
2 ポスター・チラシ (職場・学校)	11.8	
3 ポスター・チラシ (自治会掲示板・その他)	17.5	
4 県・市町村の広報紙 (県のたよりなど)	56.5	
5 県からの送付物 (納税通知など)	9.0	
6 ホームページ	8.0	
7 SNS※	1.7	
8 新聞・ミニコミ誌・タウン誌	15.4	
9 地域のイベント・お祭り	2.4	
10 その他	1.9	(無回答 3.3)

※SNSには、例えばLINE、Instagram、Twitterなどがあります。

【全員の方がお答えください】

問 17 身近で障がい者と接する機会がありますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 ある	29.1	3 以前も今もまったくない	14.6	5 分からない	1.2
2 あまりない	40.0	4 以前はあったが今はない	13.4		(無回答 1.6)

問 18 5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 増えたと思う	11.9	4 どちらかといえば増えていないと思う	5.4
2 どちらかといえば増えたと思う	30.7	5 増えていないと思う	9.0
3 どちらともいえない	25.8	6 分からない	15.7
			(無回答 1.5)

問 19 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 あると思う	36.8	3 あまりないと思う	10.8	5 その他	0.1
2 少しはあると思う	42.2	4 ないと思う	4.3	6 分からない	4.5
					(無回答 1.3)

問 20 手話について学ぶとしたら、どのような方法で学びたいですか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 手話講習会	27.0	4 本・DVD	5.1	7 学びたいとは思わない	11.3
2 手話サークル	8.2	5 テレビ番組	9.2	8 その他	0.9
3 インターネット	19.0	6 学校教育	6.7	9 分からない	8.9
					(無回答 3.7)

問 21 「ともに生きる社会かながわ」の実現のため、障がいの程度にかかわらず、あらゆる人が文化芸術活動を楽しむためには、どのような取組みが有効だと思いますか。(〇はいくつでも)
(n=1,577) (%)

1 障がい者のみが参加・出演するイベントなどの開催	5.2
2 障がい者に限らず、あらゆる人が参加・出演できるイベントなどの開催	69.2
3 自宅や病院などから鑑賞できる公演の開催	28.3
4 鑑賞しやすい環境の整備(字幕表示や車椅子席の設置など)	55.7
5 その他	2.2
6 分からない	7.8
	(無回答 1.6)

5 かながわの広報

問 22 県では、広報紙や県提供のテレビ・ラジオ番組、インターネット、ホームページなどで様々な県政情報をお伝えしています。県は、県政の情報を十分に伝えていると思いますか。(〇は1つ)
(n=1,577) (%)

1 伝えている	5.7	4 伝えていない	9.9
2 どちらかといえば伝えている	34.5	5 分からない	28.2
3 どちらかといえば伝えていない	20.0		(無回答 1.6)

問 23 県が県政情報を伝えている広報媒体について、知っているものを選んでください。
(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 県の公式 YouTube 動画サイト「かなチャンTV」	5.7
2 県の広報紙「県のたより」	62.2
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	16.2
4 県の広報ラジオ番組 (FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」)	11.5
5 県のホームページ	33.7
6 県のソーシャルメディア※	6.5
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	19.5
8 新聞での紙面広報	13.2
9 タウン誌、ミニコミ誌など	21.2
10 知っているものはない	12.5
	(無回答 1.5)

※ソーシャルメディアとは、例えばTwitter、Facebook、Instagramなどがあります。

問 24 県の事業や行事、お知らせなどの情報をどこから入手していますか。 (〇はいくつでも)
(n=1,577) (%)

1 県の公式 YouTube 動画サイト「かなチャンTV」	1.6
2 県の広報紙「県のたより」	55.0
3 県の広報テレビ番組 (tvk「カナフルTV」)	7.9
4 県の広報ラジオ番組 (FM 横浜「KANAGAWA Muffin」)	5.5
5 県のホームページ	19.8
6 県のソーシャルメディア	4.7
7 県が発行する冊子・パンフレット・チラシなど	14.0
8 新聞での紙面広報	13.6
9 タウン誌、ミニコミ誌など	16.7
10 どこからも入手していない	21.0 (無回答 1.6)

6 神奈川県の人権

問 25 今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。 (〇は1つ) (n=1,577) (%)

1 そう思う	38.4	3 どちらともいえない	38.5
2 そう思わない	19.7		(無回答 3.5)

問 26 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題は何ですか。 (〇はいくつでも)
(n=1,577) (%)

1 子どもの人権	31.6	7 インターネットにおける人権問題	42.1
2 女性の人権	29.2	8 性的マイノリティの人権	24.0
3 障がい者の人権	31.8	9 医療従事者・患者などの人権	30.9
4 高齢者の人権	18.8	10 その他	2.4
5 外国人の人権	24.3	11 特になし	12.4
6 同和問題	3.7		(無回答 2.5)

問 27 人権課題を解消するために、力を入れて取り組む必要があると思うことは何ですか。
(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 学校などにおける人権教育	65.6	6 差別的表現の規制・モニタリング	22.1
2 企業などにおける人権研修	35.8	7 国による法整備	39.1
3 広告やインターネットなどを 活用した啓発活動	19.7	8 地方自治体による条例整備	28.2
4 相談体制の充実	29.9	9 その他	1.8
5 当事者を支援する取組みの充実	32.3	10 分からない	8.1
			(無回答 2.3)

7 男女共同参画社会

問 28 女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 職業をもたない方がよい	0.3
2 結婚したら職業をやめる方がよい	0.4
3 子どもができたら、職業をやめる方がよい	1.3
4 子どもができたら職業をやめ、大きくなったらフルタイムで職業をもつ方がよい	10.0
5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい	12.4
6 ずっと職業を続ける方がよい	44.4
7 その他	18.5
8 分からない	9.8
(無回答 2.9)	

問 29 女性が活躍するためには、職場や社会、家庭などにおいて、どのような取組みや支援が必要だと思いませんか。 (○はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 企業トップが女性の活躍の促進に積極的であること	43.4
2 職場の上司・同僚が、仕事と家事、育児、介護などの両立について理解があること	77.4
3 家事、育児、介護などとの両立についての職場の支援制度が整っていること	72.6
4 企業内で長時間労働の是正について必要な措置が図られていること	35.8
5 フレックスタイム※や在宅勤務など、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の導入が図られていること	56.0
6 キャリアアップにつながるような仕事を女性に任せること	27.4
7 女性の仕事が適正に評価されること	51.4
8 身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること	17.7
9 社会において政策・方針決定過程の場に女性を増やすこと	24.1
10 地域においてスキルアップに向けた講座やセミナーがあること	12.6
11 地域において就職相談などの再就職しやすい環境が整っていること	32.9
12 地域において保育や介護などのサービスが充実していること	54.0
13 家庭において男性の積極的な家事、育児、介護などへの参画があること	56.6
14 その他	4.2
15 特になし	1.3
16 分からない	2.4
(無回答 1.1)	

※フレックスタイムとは、一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度です。

問 30 男性が家事、育児、介護や地域活動にかかわるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。 (〇は3つまで) (n=1,577) (%)

1	職場の人員配置に余裕ができること	25.0
2	上司・同僚の理解があること	55.9
3	残業が少なくなること	11.4
4	休暇が取りやすくなること	36.6
5	昇進・昇給への悪影響がないこと	29.9
6	時間当たりの賃金が改善すること	5.1
7	配偶者とのコミュニケーションを向上すること	12.5
8	配偶者が仕事を持つなど、家事などに取り組む必要性があること	4.8
9	時間の使い方の優先順位を変えること	5.4
10	家事などは女性が行うべきという意識が変わること	30.3
11	その他	2.0
12	特にない	0.8
13	分からない	2.0
		(無回答 16.2)

問 31 女性も男性もそれぞれの個性と能力を發揮できる社会の実現を目指して、県では、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。 (〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1	政策・方針決定過程への女性の参画拡大	30.1
2	働き方の見直し（長時間労働の削減や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現など）	61.5
3	保育・介護の施設やサービスの充実	66.1
4	出産、育児や介護などにより離職した人に対する再就職などの支援	56.6
5	若年層を対象とした、性別にとらわれず多様な選択を可能とするための学習機会の充実	24.3
6	男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動	28.2
7	メディアにおける固定的性別役割分担意識※に基づく表現をなくす取り組み	21.2
8	思春期、妊娠・出産期、高齢期など女性の生涯を通じた健康づくり	20.5
9	配偶者などからの暴力被害者への支援	24.4
10	貧困・高齢・障がいなどにより、困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備	48.7
11	防災や災害時、復興過程における女性の参画や女性視点による体制確立	16.8
12	その他	2.5
13	特にない	1.2
14	分からない	3.0
		(無回答 1.5)

※**固定的性別役割分担意識**とは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」というような性別によって固定的に役割を分けて考えることです。

【問 32 は、配偶者のいる方のみお答えください】

問 32 家庭では、家事、育児、ご自身の親（実親・義理親）の介護を主にどなたがしていますか。

（〇はそれぞれ1つずつ）（n=1,101）（%）

	ほとんど妻	と妻 どちらかという	らい分担 夫と妻が同じく	と夫 どちらかという	ほとんど夫	夫婦以外	行う必要がない	（無回答）
(1) 家事	50.0	29.0	14.6	1.8	1.4	0.5	0.6	2.2
(2) 育児	31.0	25.8	8.9	0.2	0.3	0.2	28.0	5.7
(3) ご自身の親（実親・義理親）の介護	12.1	7.6	9.0	1.0	1.3	5.4	58.8	4.8

8 SDGs（持続可能な開発目標）

問 33 SDGs(エス・ディー・ジーズ)について知っていますか。 （〇は1つ）（n=1,577）（%）

1 知っている	47.4	3 知らなかった	23.9
2 言葉は聞いたことがある	25.2		（無回答 3.4）



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月にすべての国連加盟国が全会一致で採択した2030年までに持続可能な世界(将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をより良い状態にすること)を実現するための開発目標です。

【問 33 で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」とお答えの方に】

問 33-1 SDGs達成に向けて、取り組みたいと思いますか。 （〇は1つ）（n=1,146）（%）

1 取り組みたい	30.4	3 取り組みたくない	2.2
2 機会があれば取り組みたい	55.7	4 分からない	9.7
			（無回答 2.1）

【全員の方がお答えください】

問 34 SDGs達成に向けて、あなたが具体的に取り組む際、どのような後押しが効果的だと思いますか。 （〇はいくつでも）（n=1,577）（%）

1 SDGsに関する詳細情報	45.1	6 職場、学校などからの後押し	29.0
2 SDGsの取り組み事例の紹介	52.1	7 著名人による旗振り	7.4
3 SDGsを意識したイベント情報	29.9	8 その他	1.3
4 SDGsに関する活動の場	30.7	9 分からない	10.3
5 SDGsと一緒に取り組む仲間	19.3	10 特になし	3.8
			（無回答 3.4）

9 気候変動への適応

問 35 「気候変動への適応」に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 関心がある	57.5	4 関心がない	1.3
2 どちらかといえば関心がある	34.0	5 分からない	3.0
3 どちらかといえば関心がない	3.4		(無回答 0.8)

近年、気温上昇や大雨の増加など、気候変動の影響により、健康や自然災害などの分野に影響が現れています。地球温暖化が進むと、これらの影響は更に大きくなる恐れがあり、こうした影響による被害を避けたり、軽減したりすることを「気候変動への適応」と言います。

10 電気自動車 (EV) の普及

問 36 電気自動車 (EV) ※を購入したいと思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 購入したいと思う	23.1	3 どちらともいえない	34.7
2 購入したいと思わない	20.0	4 自動車自体を購入したいと思わない	19.6
			(無回答 2.5)

※電気自動車とは、バッテリーに蓄えた電気を動力源としてモーターで走る自動車で、走行時に二酸化炭素を出さない環境にやさしい車です。外部に電気を給電する機能を備えていると、災害時に非常用電源として利用することができます。

【問 36 で「1 購入したいと思う」とお答えの方に】

問 36-1 その理由は何ですか。 (○はいくつでも) (n=365) (%)

1 環境にやさしいから	82.7	5 燃費 (電費※) が良いから	43.3
2 災害時に非常用電源として使えるから	47.4	6 補助金や減税を受けられるから	23.6
3 走行時に振動や音が少ないから	22.7	7 車両のデザインが良いから	1.6
4 加速が良いから	8.2	8 その他	2.2
			(無回答 0.0)

※電費とは、電気自動車などが1km 走行するのに必要な電力量を表す単位で、ガソリン車の燃費に相当するものです。同じ距離を走行した場合、ガソリン車のガソリン代よりも電気自動車の電気代の方が安くなる場合があります。

【問 36 で「2 購入したいと思わない」とお答えの方に】

問 36-2 その理由は何ですか。 (○はいくつでも) (n=315) (%)

1 価格が高いから	51.4	5 燃費 (電費※) が悪いから	8.9
2 充電インフラが整っていないから	60.6	6 車両のデザインが良くないから	14.0
3 充電に時間がかかるから	37.5	7 電気自動車をよく知らないから	12.7
4 1回の満充電で走行できる距離が短いから	40.3	8 その他	24.4
			(無回答 1.0)

※電費とは、電気自動車などが1km 走行するのに必要な電力量を表す単位で、ガソリン車の燃費に相当するものです。同じ距離を走行した場合、ガソリン車のガソリン代よりも電気自動車の電気代の方が安くなる場合があります。

11 プラスチックごみ削減に向けて

問 37 プラスチックに関して、ごみの削減やリサイクルの推進に向けて心がけていることはありますか。 (○はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 プラスチックごみの分別を徹底する	88.7	5 海岸や地域の清掃活動を行う	7.4
2 ワンウェイプラ※をできるだけ使わない	27.4	6 その他	1.4
3 代替素材※を使った製品を購入する	18.8	7 特にない	5.1
4 ごみ問題に取り組む企業の製品を購入する	9.9	(無回答)	0.8

※ワンウェイプラとは、レジ袋、食品トレイなどの使い捨てプラスチックのことです。

※代替素材には、紙や木材のほか、微生物の働きで分解する生分解性プラスチック、植物や微生物由来の物質で作るバイオマスプラスチックなどがあり、環境負荷が小さいといわれています。

問 38 ペットボトルを飲料の容器として使用することをどう思いますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 便利なので使用してよい	12.9	5 マイボトルを使用する方がよい	19.1
2 ポイ捨てを無くせば使用してよい	21.3	6 その他	0.4
3 B to Bリサイクル※をすれば使用してよい	37.6	7 分からない	1.5
4 缶やびんなどを使用する方がよい	2.3	(無回答)	4.8

※B to B(ボトル to ボトル)リサイクルとは、ペットボトルをペットボトルとしてリサイクルすることです。

ペットボトルは、ボトル・ラベル・キャップに3分別すれば、何度でもリサイクルすることができます。

問 39 海洋プラスチックごみ問題※の解決に向けた県の取組みとして、何が重要だと思いますか。

(○は3つまで) (n=1,577) (%)

1 海洋プラスチックごみ問題の現状を広く伝える	56.7		
2 一人ひとりができる具体の取組みを示す	52.6		
3 NPO法人などの清掃活動を支援する	16.0		
4 海岸・河川などの清掃をした人に特典を与える	21.4		
5 プラスチック製品の販売や使用を抑制する	35.3		
6 不法投棄の監視やパトロールを強化する	34.1		
7 その他	3.2		
8 分からない	3.2	(無回答)	3.2

※海洋プラスチックごみ問題とは、ごみの不法投棄などにより海に流出したプラスチックが長期間にわたり海中にとどまることで、生態系、生活環境、漁業、観光などへの悪影響が懸念される問題です。

12 地域コミュニティ

問 40 将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがありますか。

(○は1つ) (n=1,577) (%)

1 ある	18.2	4 ない	11.2
2 どちらかといえばある	28.2	5 分からない	13.2
3 どちらかといえはない	11.4	6 すでに近くに、あるいは一緒に住んでいる	15.7
		(無回答)	2.2

問 41 日頃、地域において、どの年代の人とコミュニケーションを取っていますか。

(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 年代は問わず 取っている	30.1	4 30代	12.2	7 60代	19.8	10 取っていない	28.7
2 10代以下	4.2	5 40代	18.3	8 70代	18.2		
3 20代	5.3	6 50代	17.8	9 80代以上	6.8		
							(無回答 1.9)

【問 41 で「1～9 (取っている)」とお答えの方に】

問 41-1 その年代の方とのコミュニケーションに期待しているものは何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,095) (%)

1 楽しさが得られる	50.4	5 知恵をもらえる	40.5
2 元気をもらえる	43.0	6 一人ではないと感じ、安心できる	32.3
3 悩み事を相談できる	24.3	7 その他	2.1
4 情報が得られる	62.0	8 期待するものはない	7.9
(無回答 1.8)			

【全員の方がお答えください】

問 42 「地域コミュニティ」のイメージはどの範囲ですか。(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 範囲にこだわらず幅広い	20.6	7 小学校の学区でのつきあい	15.9
2 向こう三軒両隣程度	12.6	8 中学校の学区でのつきあい	10.0
3 自宅の周囲で 20 軒程度	7.9	9 その他	2.2
4 自治会、町内会	55.7	10 分からない	8.9
5 自宅から徒歩 15 分程度	8.8		
6 保育園、幼稚園でのつきあい	12.1		
(無回答 2.7)			

13 治安対策

問 43 不安を感じる身近な犯罪は何ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 ひったくり	23.7	9 自転車やオートバイの盗難	22.8
2 特殊詐欺	47.6	10 自動車の盗難	17.8
3 悪質な客引き	7.7	11 コンピュータへの不正アクセス	43.6
4 空き巣	51.8	12 インターネットを利用した犯罪 (詐欺、ネットポルノ、児童買春など)	38.4
5 子どもの誘拐や子どもへのいたずら	33.5	13 大麻、覚醒剤などの薬物犯罪	12.0
6 痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	27.6	14 その他	1.1
7 ストーカー行為	16.2	15 特にない	5.6
8 暴行や傷害	24.9		
(無回答 1.9)			

問 44 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすいのはどのような方法ですか。

(〇はいくつでも) (n=1,577) (%)

1	テレビ	61.3	8	インターネット	
2	ラジオ	12.7	(警察のホームページ、Twitter、「Yahoo! 防災速報」、 神奈川県警察公式 YouTube 防犯チャンネルなど) 48.6		
3	新聞	26.4	9	警察からのメール	15.7
4	ポスター・チラシなど	21.9	10	警察官の防犯講話・防犯教室	3.6
5	回覧板	33.8	11	警察官の戸別訪問	8.1
6	防災無線	18.6	12	その他	1.2
7	駅前などでのキャンペーン	9.1	(無回答 1.6)		

問 45 犯罪がなく、より安心してくらすために最も重要だと思うものは何ですか。

(〇は1つ) (n=1,577) (%)

1	地域住民同士のつながり	26.6	5	防犯ボランティアによる防犯活動	2.2
2	官民一体となった防犯活動	13.3	6	その他	1.1
3	防犯カメラなどの防犯設備の整備	35.7	7	特にない	1.6
4	規範意識を高める教育	6.9	(無回答 12.7)		

問 46 交通事故のない社会を目指すために、重要だと思うものは何ですか。

(〇は3つまで)

(n=1,577) (%)

1	白バイやパトカーによる警戒	36.3
2	交通安全施設の整備 (信号機、道路標識・標示など)	49.4
3	制服警察官による街頭活動 (交通指導取締り、検問など)	25.0
4	交通違反などの厳罰化	38.3
5	交通安全教室・講習	16.2
6	交通安全に関する広報・キャンペーン	13.7
7	ボランティアなどによる街頭活動 (交差点での見守りなど)	12.0
8	安全運転相談 (運転に不安を覚える方の相談支援)	11.5
9	その他	5.8
10	特にない	2.7
(無回答 5.8)		

14 マスク飲食

「マスク飲食 (会食)」は、感染対策の急所とされている飲食の場での飛沫感染を防止するために呼び掛けているもので、特に外食する際は、料理が来るまではマスク/食べる時は黙食/会話するときは再びマスク (一時的に会話する場合はマスクの代わりにハンカチで口元を塞ぐなどの方法も可) といった、食事中であっても、会話をするときは必ずマスクをつける「マスク飲食 (会食)」を徹底することが重要です。

そこで、外食する際の「マスク飲食 (会食)」の実践状況について、お伺いします。

問 47 「マスク飲食（会食）」を実践していますか。 (○は1つ) (n=1,577) (%)

1 毎回実践している	24.4	3 どちらかといえば実践していない	5.1
2 どちらかといえば実践している	25.7	4 実践していない	3.6
		5 そもそも外食（会食）自体をしていない	36.7
		(無回答)	4.5)

【問47で「3 どちらかといえば実践していない」または「4 実践していない」とお答えの方に】 ←

問 47-1 「マスク飲食（会食）」を実践していない理由は何ですか。 (○はいくつでも) (n=137) (%)

1 「マスク飲食（会食）」を実践するのは面倒だから	32.1
2 「マスク飲食（会食）」を実践するのは非現実的で無理があるから	51.1
3 「マスク飲食（会食）」を実践する際のマスクの付け外しは不衛生だから	36.5
4 「マスク飲食（会食）」を実践するのは恥ずかしいから	1.5
5 「マスク飲食（会食）」の効果について、科学的に裏付ける根拠（データ）がないので、「マスク飲食（会食）」を実践する意義が見いだせないから	29.2
6 他のお客も「マスク飲食（会食）」を実践していないから	13.1
7 お店から「マスク飲食（会食）」の実践を求められていないから	13.9
8 そもそも「マスク飲食（会食）」を実践する必要はないと思っているから	17.5
9 その他	8.8
	(無回答 2.2)

【全員の方がお答えください】

問 48 多くの人に「マスク飲食（会食）」を実践していただくためには、どのような取組みが有効と考えますか。 (○はいくつでも) (n=1,577) (%)

1 広く県民向けに、「マスク飲食（会食）」の目的や期待される効果を普及啓発する	42.8
2 実際の飲食時に、感染対策に関する気づきの機会を多く得られるよう、店舗内でチラシやポップの掲示などを行う	51.3
3 条例などで共通のルールとして定める	37.0
4 そもそも「マスク飲食（会食）」を実践する必要はない	10.5
5 その他	5.7
	(無回答 6.3)

…*…
集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,577) (%)

1 横浜(横浜市)	37.5
2 川崎(川崎市)	14.3
3 相模原(相模原市)	7.1
4 横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	8.3
5 県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	9.7
6 湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	15.0
7 県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	3.5
	(無回答 4.6)

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,577) (%)

1 男性	43.2	2 女性	50.3	(無回答 6.4)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2021年9月1日現在) (n=1,577) (%)

1 18～19歳	0.2	5 35～39歳	8.1	9 55～59歳	9.9	13 75～79歳	4.5
2 20～24歳	1.3	6 40～44歳	8.2	10 60～64歳	8.8	14 80歳以上	2.5
3 25～29歳	2.6	7 45～49歳	12.7	11 65～69歳	8.3		
4 30～34歳	5.3	8 50～54歳	11.9	12 70～74歳	11.0		(無回答 4.8)

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。)
(〇はあてはまるものすべて) (n=1,577) (%)

1 小学校入学前	9.3	5 短大、専門学校等在学中	1.0	9 その他()	2.5
2 小学校在学中	10.8	6 大学、大学院等在学中	7.7	10 子どもはいない	28.7
3 中学校在学中	6.7	7 学校教育終了[未婚]	21.4		
4 高所在学中	7.0	8 学校教育終了[既婚]	23.9		(無回答 5.6)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ) (n=1,577) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	15.1	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	4.8
2 夫婦のみ(1世代世帯)	28.6	5 その他の世帯	5.7
3 親と子の世帯(2世代世帯)	45.1		(無回答 0.7)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。
また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,577) (%)

(n=1,018) (%)

1 自営業主	5.3	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.4
2 家族従業者 (家業手伝い)	0.8		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	4.1
			ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	4.3
3 勤め (フルタイム)	42.7	エ～ケから 1つ選んで ください。	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	9.1
4 勤め (パートタイム)	15.6		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	20.0
5 内職	0.1		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	22.0
			キ 教育職(教諭、保育士など)	5.1
			ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	12.0
			ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	19.8
6 主婦・主夫(勤めていない)	14.7			(無回答 3.0)
7 学生	0.6			
8 無職	16.6			
9 その他	0.6			(無回答 2.9)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、10月4日(月)までにご投函ください。(切手は不要です。)
なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

【テーマ名： _____】

154人(9.8%)から自由意見が寄せられました。

